

令和6年産 美里地区の大豆情報



第3号 令和6年8月16日

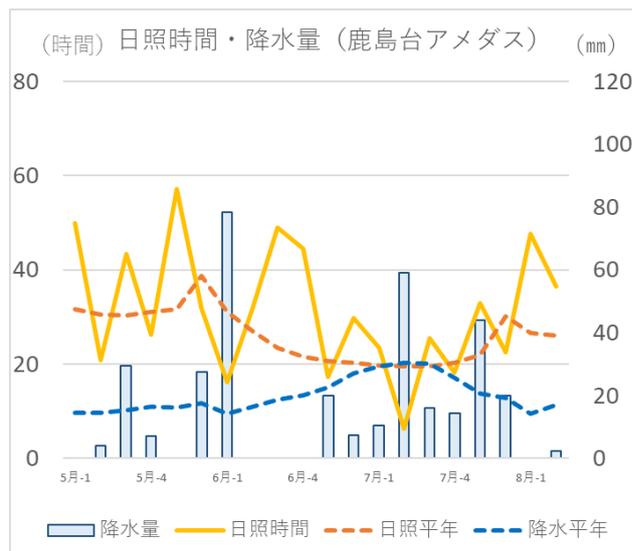
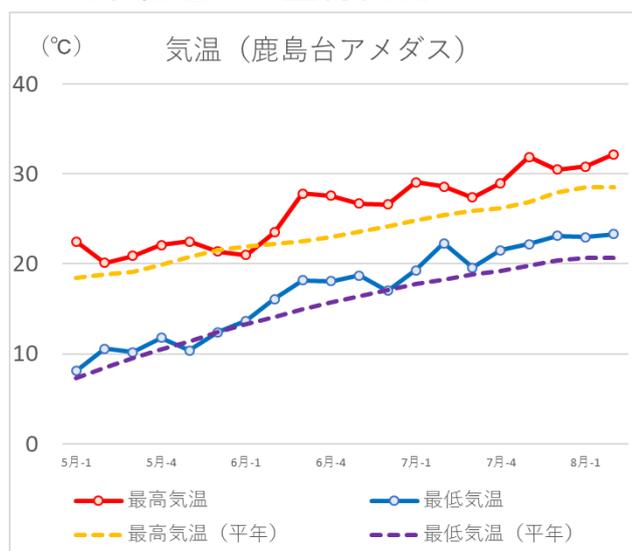
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

1 気象経過及び生育概況



- 生育期間を通じて高温傾向が続いています。
- 日照時間は期間を通じて多く、旬別では6月上旬・7月上旬を除き平年を上回っています。
- 降水量は6月2日に60.5mm、7月25日に43mmの雨を観測していますが、前年のような極端に多い降水は観測されておらず、月別でもほぼ平年並みで推移しています。

管内の大豆生育概況

表1 生育調査結果

品種	調査地点	区分	播種日	7月25日調査※			8月13日調査		
				主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
タチナガハ	涌谷町岸ヶ森	本年値	6月13日	28.9	8.8	0.0	45.2	12.8	1.9
		前年差	-6日	-28.7	-3.8	-1.5	-12.4	0.2	0.4
	大崎市田尻大沢	本年値	6月8日	57.1	12.1	0.0	89.2	15.3	1.8
		前年差	+8日	-11.2	-2.5	-2.7	20.9	0.7	-0.9
	大崎市鹿島台木間塚	本年値	7月1日	42.8	7.5	0.3	78.5	12.0	1.2
		前年差	+8日	-19.7	-6.1	-1.7	16.0	-1.6	-0.8
ミヤギシロメ	涌谷町岸ヶ森	本年値	6月13日	43.9	9.5	0.5	64.8	13.3	1.9
		前年差	-6日	-10.3	0.5	-0.9	10.6	4.3	0.5
	美里町青生	本年値	6月18日	32.0	8.6	0.1	74.9	13.8	3.0
		前年差	+11日	-41.3	-4.2	-2.7	1.6	1.0	0.2

※一部調査区で調査日が異なります。

- タチナガハのほ場では開花終期、晩播のほ場及びミヤギシロメでは開花盛期を過ぎた頃となっています。
- 各ほ場とも食葉性害虫の食害が確認されるほか、べと病の発生も一部で見られます。
- 両品種とも7月の時点では前年より生育量が少なめでしたが、8月中旬には主茎長や主茎節数で前年を上回るほ場が多くなっています。

2 今後の管理について

(1) 湿害・干害対策 早急に排水対策を実施して、生育量を確保しましょう

- ・8月～9月にかけて台風の影響で大雨になることが多いため、大豆の子実が肥大する生育後期は、特に湿害を受けやすい時期と言われており、根の吸収阻害や根粒菌の活性低下により減収につながります。急な雨に備えて、ほ場の排水機能を確認・改善しましょう。
- ・昨年は梅雨明け後に晴天が続いたこともあり、青立ち株が多発しました。開花期～子実肥大期にかけて、それまでの生育量と比較して3～4倍の生育量となるため、養水分が多量に必要です。また開花期の乾燥は落花・落莢を増加させ、減収につながります。必要に応じて暗きよを閉じるなど、ほ場の水分保持に努めるほか、かん水が可能な場合は畝間に土壌水分がしみ出す程度に通水しましょう。

	5個体当たり落莢数(個)	1莢当たり粒数(個)	成熟期調査			子実重		百粒重(g)
			莖長(cm)	分枝数(本/本)	莢数(個/本)	a当たり(kg/a)	対比(%)	
開花10日前～開花期	23	1.86	67.3	4.7	52.5	26.5	110	30.6
開花期～終花期	29	1.83	67.9	5.0	54.9	26.9	112	31.1
開花期～黄葉期	29	1.88	71.7	4.9	60.9	27.5	114	31.6
無処理	40	1.76	63.0	4.4	51.1	24.1	(100)	31.2

注) 品種: タンレイ, ほ場: 農業センター転換畑(黒泥土強粘土型)

表2 かん水時期別の生育および収量(農業センター、昭54～56)
(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

(2) 病害虫対策 発生病害虫に合わせて、効果的に防除しましょう

- ・県病害虫防除所の発生予察情報第7号(令和6年8月5日発行)において、発生量「やや多」と推測されている病害虫もあるほか、オオタバコガについては発生地点率が例年より高いため、防除情報第4号(令和6年7月22日発行)で防除が呼びかけられています。

● ツメクサガ・オオタバコガ【発生量: 多※】

※オオタバコガの調査結果より

突発的に多発し葉や莢を食害します。発生密度は開花始期ごろにピークを迎え、ピーク時の発生密度は播種時期が遅いほど高くなる傾向にあります(下図参照)。フェロモントラップのオオタバコガ誘殺状況では、県内いずれの調査地点も誘殺数が前年より多く、今後も発生に好適な条件が続くと見込まれています。ほ場の状況をよく観察し、散布時期を逸さないように作業を行いましょう。



オオタバコガ幼虫

(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

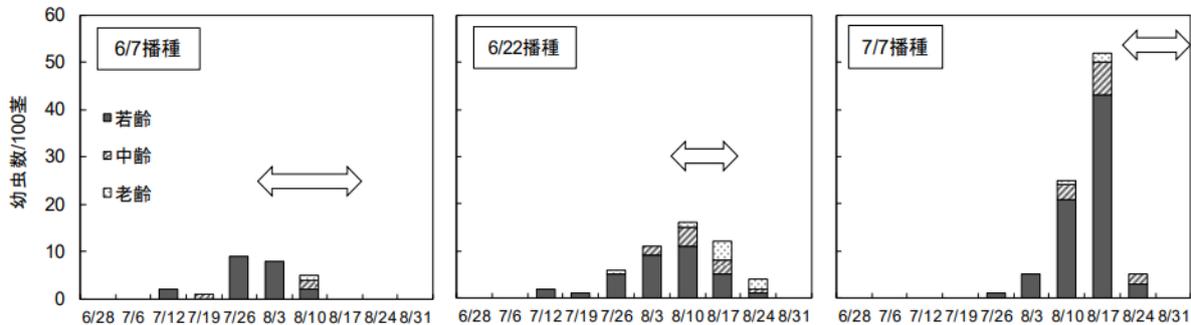


図1 播種時期が異なるダイズにおけるタバコガ類幼虫の発生消長(品種: ミヤギシロメ)

(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

● マメシクイガ【発生量: 少】

連作ほ場で多発します。幼虫が子実の縫合線に沿って食害します。8月末～9月はじめに1回目の防除、その7～10日後に2回目の防除を行いましょう。日長に反応して休眠覚醒するため、発生時期の年次変動は少ない傾向があります。

●吸実性カメムシ類【発生量：やや多】

ホソヘリカメムシやアオクサカメムシなど数種が莢内の子実を加害します。莢が若いほど被害が大きいため、着莢期～子実肥大中期を重点に2回以上の防除を行いましょう。8月下旬～9月上旬に防除を行うことでマメシクイガ等との同時防除が可能です。



カメムシ類による被害粒
(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

●フタスジヒメハムシ【発生量：平年並】

連作ほ場で多くなります。子実に黒色の斑点が生じるほか、大豆の生育期間中に葉を食害（円孔状）します。若莢の表面を舐め取るような食害痕が特徴で、莢の食害部分から雑菌が侵入して被害粒が生じます。

●紫斑病【発生量：平年並】

タンレイでは特に注意が必要です。成熟期の平均気温が18±3℃で、降雨が多いと発生が多くなります。開花期後20～40日に1～2回防除（同一剤を使用しない）しましょう。



大豆紫斑粒
(みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針 より)

熱中症対策強化期間中！！(5月1日～9月30日)

～熱中症予防のポイント～

○暑さを避ける

○こまめな休憩と水分補給

○単独作業は避ける

○熱中症予防アイテムの活用

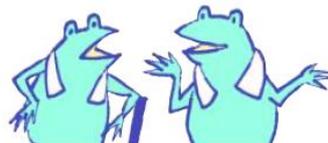
高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



(図の出典:農林水産省熱中症対策パンフレット)

～無事に家に帰るまでが農作業です～

農薬危害防止運動実施中(6月1日～8月31日)

1. 周辺環境や近隣住民の方々に配慮しましょう
2. 農薬容器のラベルをよく読みましょう
3. 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
4. 土壌くん蒸剤の取り扱いに注意しましょう
5. 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
6. 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう